

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300105		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家七隈		
所在地	福岡県福岡市城南区七隈7-8-15		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果確定日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4091300105-00&prefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成27年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

名前の通り「たのしい家」である様に関係する全ての方が楽しいと感じて頂ける施設を目指しています。ご入居者様が地域の一員である事を感じて頂く事とご家族、地域の方に開かれた施設であることを知って頂くために月一回「七隈カフェ」を開催しています。地域の方にもボランティアで参加して頂き、地域・ご家族・施設でご入居者様に安心・安全に生活して頂ける様に支援しています。また、行事では季節を感じて頂けるような計画をたてゆっくりとした時間を楽しんで頂いています。理念だけでなく実践できる施設として運営を行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・本社ケア21の経営理念と、たのしい家七隈の基本理念を、管理者・職員が理解し、地域の一員となるように努力し運営に反映して入居者と家族を支援している。毎月行う、職員と入居者の手作りお菓子を提供する七隈カフェを通じて、家族、地域住民や包括・社協・他の事業所との交流を図っている。七隈カフェでは、手作りお菓子だけでなく、ボランティアによる演奏や芸芸などを披露して地域に馴染む努力をしている。近隣の保育園児が散歩中に訪問して入居者を楽しませてくれたり、隣の施設の駐車場を避難退避場所として使えるよう協力してもらっている。職員と入居者との信頼性も強く、笑顔も笑い声も絶えず、「たのしい家」の雰囲気も伺える。日常の様子や行事などを、毎月「七隈新聞」で家族や地域の包括などに送り事業所の状況を知らせ、入居者の様子を個別に家族には伝えており安心してもらっている。料理も職員と入居者が一緒に調理し同じテーブルで食事をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域のとの交流を理念に掲げて、地域交流を意識した行事参加や呼びかけも行き、地域の一員である事を内外共に認識を出来るよう実践している。また理念の共有する為朝と夕方の申し送り時に読み合わせている。	たのしい家の経営理念を全職員が認識し、当事業所で生活している入居者に対して支援を行うように努力している。地域の方々と交流し事業所の名のおり「たのしい家」であることを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館や地域の高齢者サロンに参加したり、近隣の学校のボランティアに施設で演奏や芸を披露して頂いている。また、近隣の保育園も散歩の途中で遊びに来ている。	事業所で月1回開催される七隈カフェに、入居者・家族、地域住民や他の事業所、学校のボランティアなどに呼びかけ、職員と入居者で作ったお菓子などを提供している。また、近くの保育園とも交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月一回当事業所にて「七隈カフェ」を開催し地域の方々、ご家族様、関係機関の方々との交流の場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一回開催をし、ご入居者様、ご家族様、地域の方(自治会長、民生委員、包括)、関係機関(社会福祉協議会、近隣施設等)に参加して頂き意見交換している。会議の中で頂いた意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、入居者・家族、職員をはじめ、地域の自治会長、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生委員、他の事業所など多くの方々が出席している。地域の方々との連携も推進会議開催ごとに深くなっている。また、職員もスキルアップに繋がっている。	運営推進会議は、定期的で開催され出席者も多く、事業所の運営に反映されているが、内容的には、経過報告や行事報告となっているため、今後は目的テーマを決め情報を伝え、支援者を増やしていくように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、七隈カフェ、城南区地域密着型サービス部会等にて交流を図り、当施設の実情、ケアサービスの取り組みを伝える様にしている。	市の担当者や地域包括支援センターなどともサービス部会や七隈カフェを通じ、相談・報告・連絡を行い、入居者のサービス向上に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い身体拘束について理解を深めている。玄関の施錠も夜間時以外は解放している。	当事業所は身体拘束は行わないことを掲げている。年間研修計画があり職員も内部研修を通じ周知している。家族へは、入居前に文書や口頭で説明をし、夜間以外は施錠をしないと伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い虐待についての理解を深めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や後見人制度を利用しているご利用者様もいらっしゃるので学ぶ機会が来ている。	権利擁護については、職員は内部研修を通して理解している。現在、利用されている入居者の方がおられるので、フロアリーダーを中心に職員と共に支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明後不明な点がない様に確認を頂いてから契約書に捺印頂いています。また制度の変わったときは運営推進会議の場や文章にて伝える様にしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、弊社からのアンケート、意見箱の設置等により意見や要望を聞く機会を作っている。	家族への意見や要望を聴く機会を推進会議や新年会・家族会など設けているが、家族からの意見は少ない。これからは、家族からの意見や要望が出しやすいような場を設けたり、関係作りを事業所として考えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの場や、適宜の個人面談、職員へのアンケート等によって意見を聞ける機会を作っている。	意見や要望は、フロアリーダーを通じ相談にに応じている。解決できない問題などは管理者やリーダーとの協議を行い対処している。また、管理者に直接言えない問題などは、本社へ直接申し出ることのできる体制となっている。年一回の職員アンケートを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の成長に応じた加点主義の評価を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	定年制を撤廃する本社の方針に則り年齢に関係なく採用の面接を行っている。また職員にはシフトを組む前に希望の休みを聞き考慮したシフト作りを行って一人一人が自己実現に向けて生き活きと働ける様配慮している。	職員の体制は、最高齢が70歳代で、最少年23歳の職員が働いている。採用についての考え方は、年齢には関係なく、健康で明るく人柄・誠実・受容などを基準としている。入居者との信頼関係が持てる方と考えている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	社内研修の場で学ぶと共に折に触れて個人のプライバシー保護の観点でのケアについて話し人権保護に努めている。	個人の尊重やプライバシーについては、内部研修を通じて職員に周知徹底している。言葉遣いが悪い場面を見かけた時は、入居者の前でなく少し離れたところで注意を行い、職員間でも互いに注意し合い支援を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修の案内を回覧し情報を提供している。また、研修日程と勤務日程の調整も可能な限り行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	城南区の部会や、運営推進会議に出席し意見交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には話しやすい環境に配慮し本人の想いを聞ける様に心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には話しやすい環境に配慮しご家族様の想いを聞ける様に心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」を見極める為本人や家族の要望等理解に努め必要があれば他のサービス利用も含め対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の思いを持ちながらその方の出来る事に着目し一緒に生活する目線で支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の状況に応じて協力関係を築きながら共に支えていく支援を心掛けている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係維持継続を可能な限り支援している。	以前住んでいた家を心配している入居者と出かけたり、近隣の商店に職員と一緒に散歩を兼ねて買い物などにも行っている。入居者の希望を叶えるように努力している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介し孤立しない様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ手紙や電話にて連絡を取り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族、関係者から情報を頂き把握に努めている。困難時は本人本位に検討をしている。	アセスメントやフェイスシートに詳しく記入しており、日常の中で入居者と関わりながら、その人の望むことを見つけるように努めている。担当職員やフロアリーダーと共に気付いたこと趣味や趣向などを確認している。家族へは、「七隈新聞」を毎月送り日常の様子などを伝えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者から情報を頂き把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りやミーティング等で把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との日々のコミュニケーションでの気づきや家族の方、関係者と話す機会を持ち現状に即した計画づくりを心掛けている。	担当職員やフロアリーダーと、入居者の日常生活における変化などについて観察を行い、月に1度モニタリングをし、家族とも話し合いながら介護計画を立てている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、連絡ノートを活用し情報の共有をしている。またミーティング時にケアの方法等意見交換を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存概念に捉われぬように柔軟に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館等の行事に個人の趣味趣向を考慮し利用できるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿ってかかりつけ医での医療を受けられるよう協議し支援している。	通院は家族対応で行い、都合が悪い時には職員が付き添い、普段の様子など伝えている。週に1回訪問看護、月に2回訪問診療を行い、入居者の健康維持に努めている。今年度は感染症も出ていない。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面等介護職員で判断出来ない事は適宜相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を入院時に行い安心して治療に専念出来るよう支援している。また退院に向けての日程は相談員と連絡をとり情報交換し早期退院に向けて配慮している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿える様に医療機関、施設と共に協議し支援している。	重度化や終末期については、指針などを使い家族に説明している。重度化や終末期に向けた内部研修は実施している。また、協力医療機関においても24時間体制での協力を得ている。今後は、家族や職員の不安を払拭するためにも研修を密にして支援を行う。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修にて救急時の対応を学んだりマニュアルを準備し初期対応出来る様に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練で昼想定、夜間想定で行っている。また訓練時には近隣の方にも知らせている。	火災避難訓練の記録もあるが、近隣住民の見学・参加はまだされていない。避難退避場所においては隣の施設の協力を得ている。備蓄品は準備されている。	火災訓練は、昼間・夜間想定と実施されているが、地震・風水害の訓練も同時に行い、近隣の方々と協力体制を取り、入居者の安全・安心に繋げるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修で接遇マナーについて学んでいる。また職員間でもお互い注意を払いケアを行っている。	接遇研修が行われた記録を確認した。一人の時間が好きな方には、希望に合わせた関わり方の支援を行っている。居室に入る時にはドアノックし確認している。言葉による抑制がないように心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい環境づくりをし思いを伝えやすいよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った支援を心掛け支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理美容を利用したり、本人の好みに沿った洋服選びを行い選択出来る声掛けもしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒に行ったり季節の食材を取り入れたり楽しんで食事が出来る様に配慮している。	委託業者からの食材を使い各ユニットごとに献立を決め、一緒に調理し出来ることはしてもらい自立支援をしている。時には、変更して一緒に買い物に行き鍋を作って食べたりして共に楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態の把握をしその方に合った提供の仕方に配慮している。また必要に応じ看護師や主治医と相談し支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の往診を利用されている方は歯科医等に助言頂き、利用されていない方は看護師と相談し本人に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛け適宜行うことによって失敗の減少を心掛け支援している。	入居者の排泄パターンを把握し、個々に合わせたトイレ誘導を行い、トイレでの自力排泄を促している。夜間対応時にもなるべく声かけてトイレ排泄を基本としている。摂取水分量を把握して、個々に合わせた対応をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量、食事量、活動量等を踏まえ看護師等と意見交換しながら予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが体調や気分に合わせて入浴を援助している。また、毎月ごとに変り湯をたのしんで頂き季節を味わって頂いている。	入浴は週3回の個浴で希望に添うよう対応している。入居者の意見を参考に、月ごとに大根葉、ゆず湯など変わり湯を提供している。入浴後の保湿ケアも行い、入居者は風呂上りにリビングの椅子に腰掛けて笑顔で水分補給をしていた。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明に配慮し状況に合わせて支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を元に不明な点は薬剤師、看護師に聞き支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸や外出の機会を作ったり、個人個人の生活歴、現在の可能な能力を元に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行く機会を作り外出を支援している。また普段は行けない様な所の場合は家族と話し合い希望に沿える様に支援している。	事業所の前に神社があり、住宅街に位置しており、散歩に適したところで入居者が希望すれば一緒に出掛けたり、商店も近く、散歩がてらの買い物もできる。外出準備時は入居者の方も笑顔になり、安眠のためにも外出支援が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方了承のもと財布等に保管して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等レクレーションの一環として手紙を出す機会を作っている。また、本人より要望があれば電話や手紙のやりとりの支援も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部を居心地良く過ごして頂くためにお一人お一人の感覚や価値観を考慮しつつ職員は自らの五感を活かし環境づくりをしている。	1階2階各々のユニットのリビングは、採光が明るくテーブルや椅子、ソファが置かれている。加湿空気清浄機が3台あり、設備環境が整っている。食堂のホワイトボードには、今日の勤務者の笑顔の写真が貼ってあり一目で分かるようになって、心が和む心配りをしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル席を利用して頂き思い思いに過ごせる様配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや仏壇、布団等使用して居心地良く過ごして頂ける様心がけている。	居室も広くゆったりとした感じがある。居室ドアには手作りの折り紙の花々が色紙に飾ってある。ベット以外は、使い慣れた物を持参し、タンスの上には、家族写真があり、居心地のよい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除や洗濯の手伝いや、料理等職員と一緒に自立した生活が出来るよう支援している。		